

# 令和5年度第1回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

## 【開催概要】

- 日 時 令和5年8月23日（水）10:00～11:30
- 会 場 ピュアリティまきび 3F飛翔の間（岡山市北区下石井2-6-41）
- 出席者 <委員（五十音順）>  
米谷会長、赤木委員、居原田委員、上田委員、泉水委員、  
田中委員、長尾委員、那須（拓）委員、松井委員、三宅委員、  
山口委員  
※委員15人中11人の出席であり、本審議会は成立  
<事務局>  
環境文化部：大熊環境文化部長、久山文化スポーツ振興監、  
岡本参与（おかやまマラソン担当）、  
宮野参与（国民スポーツ大会担当）、  
村上国民スポーツ大会推進室長、  
山本スポーツ振興課長  
子ども・福祉部：藤原障害福祉課総括参事  
教 育 庁：片岡保健体育課長

## 1 開 会

## 2 あいさつ

### ○環境文化部長あいさつ

- ・この5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置付けが5類に移行し、スポーツ活動もコロナ禍前のにぎわいを取り戻した。
- ・昨年来、岡山のスポーツ界は活況を呈しており、あらためて、スポーツの力を感じている。
- ・11月12日に開催されるおかやまマラソンでは、ランナーの定員をコロナ禍前の2019年に戻すとともに、ファンランも4年ぶりに復活した。
- ・2025年1月26日から2月5日まで開催される「第79回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会及びアイスホッケー競技会」については、西日本で初めての開催となる冬季大会であることから、岡山県の魅力を全国に発信するとともに、今後の西日本開催の前例となるよう、準備を進めている。
- ・本日は、県スポーツ推進計画の進捗状況について、お諮りするとともに、フリーディスカッションでは、「子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会の確保を目指して」というテーマで、生涯スポーツ、部活動の地域移行・地域連携等に関連して、ご議論をお願いします。限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見を頂戴したい。

### 3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

#### (1) 岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2022 年度実績）について

##### 資料 1

#### ■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

#### ■質疑等

##### ①進捗状況の評価関係

（委員）

- ・令和 2 年度から 4 年度の進捗状況はコロナ禍の影響を受けている。中には「『普段の生活の中で芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている』と感じている人の割合」のように、あまり影響を受けない目標もあるかと思うが、ここ数年の数値をベースに、進捗状況の評価することは難しいのではないか。
- ・例えば、コロナ禍でできなかった運動会を今年復活させようとしたとき、できなかったり、規模を縮小したまま開催したりする地域が増えている。今後の施策を検討するとき、コロナ禍の前に戻すということが、そもそも難しくなっている中、進捗状況をどのように評価するのか。

（スポーツ振興課長）

- ・進捗状況について、コロナ禍前と後の比較が難しいことは承知している。コロナ禍前にできていたことが、様々な事情によりできなくなることはあるかもしれないが、新たな取組をすることで、これからの数値目標に近づくと考えている。

##### ②施策評価シートの評価指標関係

（委員）

- ・評価指標が、ほぼ「3」となっており、何ができて何ができなかったかが分かりにくい。自己評価なのでやむを得ない面もあるが、もう少し分かりやすくなるよう、評価の仕方を変えることはできないか。

（スポーツ振興課長）

- ・総合評価は、個別評価を合計したものの平均値となっている。結果として「概ね目標を達成している」の「3」が多いが、コロナ禍を脱しつつある中、令和 3 年度に比べ、総合評価が上昇した指標もある。

（会長）

- ・評価指標の目安について分かりやすくなるよう、可能な範囲で工夫をお願い

いしたい。

### ③基本施策 I（ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）関係

（委員）

- ・「1週間の総運動時間数 60 分未満の児童生徒数の割合」について、小学校 5 年生、中学校 2 年生とも女子の割合が男子に比して高い理由はなにか？

（保健体育課長）

- ・体育授業の時間以外にいかに関運動しているか、の数値であり、学校現場にいた経験からの感覚的なものではあるが、男子の方が放課後等に外遊びをする傾向がある。また、中学校に入ると部活動が始まり、女子の方が文化部に所属する傾向が高く女子生徒の体育授業の時間以外での運動時間が減少するのではないかと推測している。

（委員）

- ・日常生活での運動習慣がない子どもが高齢者になったときにどうなるか、将来にわたる影響が心配である。個人的な見解であるが、習慣として歩いている人は長生きであると感じる。元気な高齢者となるよう、子どもときから運動習慣が身につく施策を検討してほしい。

（委員）

- ・女子の総運動時間を増やすために、今後、どのような取組をするのか。

（保健体育課長）

- ・まずは、やらせるのではなく、興味をもって体を動かすことに取り組んでもらうことが大切であると考えている。
- ・子どもたちが興味を持って体を動かすことに取り組んでもらう「みんなでチャレンジランキング」等について、今年度から一校 1 チャレンジに取り組むこととしている。小学校の先生方にも体力向上担当を決めていただき研修会を実施し、体を動かすことの楽しさと、なぜ運動が必要なのかについて学んでもらっている。

（委員）

- ・本取組に各小学校は理解を示しているのか。働き方改革の課題もある中で、校長に本事業の重要性を理解していただくことが大切である。現場に浸透するよう、地道な努力を続けてもらいたい。

（保健体育課長）

- ・小学校ごとに、「知・徳・体」それぞれの課題に応じた取組をされていることから、学校によって取組に差があるのは確かであるが、「体」について、管理職の理解を得た取組となるよう、引き続き働きかけたい。

（会長）

- ・小学校において、体力向上担当教員が決まったとのこと、「みんなでチャレンジランキング」等、今後の取組を期待している。

(委員)

- ・ 幼児期に保護者が運動好きであれば、そこに子どももついて行き、運動を楽しむようになる。保育園、子ども園、幼稚園では、保護者に働きかけ、意識を変えてもらうことの重要性を実感している。親子遊びでは保護者に向けた発信が大切であり、そのようなプログラムを検討してもらいたい。

(スポーツ振興課長)

- ・ 「アクティブ・チャイルド・プログラム」において、子どもが楽しみながら体を動かすことができるよう、指導者の育成を進めている。保護者にも参加してもらえよう取組を進めていきたい。

#### ④基本施策Ⅳ（スポーツ環境の整備）関係

(委員)

- ・ 「県営スポーツ施設利用者数」について、令和4年度はコロナ禍からの回復基調にあるとのことだが、回復傾向は施設ごとの差があるのか。

(山本課長)

- ・ 施設ごとに、著しい差異はない。

## 4 フリーディスカッション 資料2

テーマ

「子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会の確保を目指して」

### ■事務局説明（スポーツ振興課長）

(スポーツ振興課長)

- ・ 将来を踏まえた中長期的な観点で議論することを基本とし、令和元年度から実施している。
- ・ 自由にご意見や思いを発言いただき、前向きな議論や情報交換の場となるようにしたい。

### ■フリーディスカッション

(会長)

- ・ 第2次県スポーツ推進計画の実効性を高めるうえでも、様々な角度からご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 全体傾向を把握するため、統計データに基づく数値化には意義がある一方、子どもたちには個人差があり、体格や生育歴等が異なる。多様性をベースに、子どもたちが自らたてた目標に向かって進んでいけるような施策をすることが大切である。

(委員)

- ・競技者を指導しているが、コロナ禍により練習会等をほぼ2年間実施できなかった。「自粛が楽」の感覚が定着し、体を動かすことを億劫になり、新たに体を動かそうという気持ちになっている子どもたちが少ない印象がある。また、送迎等、保護者の時間に対する感覚も、この数年で変化している。一方、家族で運動している家庭もあり、保護者が一緒に活動することで子どもが変わる。
- ・専門性が高いクラブチームが多くなっているため、色々な体験ができるクラブチームや環境があれば、子どもたちが運動をしやすくなるのではないかと。部活動の地域移行、地域連携等の関係で、クラブチームの専門性が高まらざるを得ない側面もあるが、大切な課題である。

(委員)

- ・行きたいけど行く場所がない、また、運動やスポーツをしようと踏み出すことができない子どもたちのために、保護者も巻き込んだ取組が必要である。

(委員)

- ・子どもファーストで考え、サッカーやバスケだけでなく、マイナースポーツなど、楽しさを重視した多様なスポーツを子どもたちに提供することが重要である。
- ・競争やプレッシャーだけでなく、ゲーム性など楽しい環境を提供するためには、適切な設備が必要であり、安全で快適な設備は子どもたちのモチベーションを高め、スポーツを続けるための重要な要素である。
- ・その他、指導者の質、保護者のサポート、体育の一環やクラブ活動など、学校との連携も大切である。

(委員)

- ・施設の充実が重要な課題であり、スポーツができるだけでなく、家族で行くことができる遊びの空間が、ますます大切となってくる。

(委員)

- ・コロナ禍が収束に向かっているが、コロナ禍前に自校の運動部活動の入部率が60%であったものが、50%を切っており、自粛期間が長期にわたっていたことの影響がまだ続いており、この傾向がどうなるか危惧している。
- ・少子化の影響もあり、平日の部活動や土日の公式戦で、生徒の人数が減少していることを実感する。
- ・運動が好きな生徒が競技スポーツに励めるとともに、あまり好きではない生徒も、友達に誘われて参加できるのが、学校部活動の良いところであり、部活動の地域移行、地域連携が進み、受け皿がどのように整備され、学校では無料だった活動が有料になったとき、どのような影響が生じるのか、気になる場所である。
- ・地域の中で子どもたちが自然と運動する機会、地域のスポーツイベント等で運動が好きであることを発見できる機会、また、地域イベントを支える人間

の育成として、学校との連携も大切である。スポーツイベントへボランティアとして参加することも、スポーツに親しむきっかけづくりとなり、地域・学校・行政のつながりと連携が大切である。

(委員)

- ・様々な課題がある中、関係機関が協力しあい、できるところから実施するのが大切であり、次につながるようになる。

(委員)

- ・中学校女子の総運動時間については、現場にいると、部活動以外のスポーツクラブに参加している生徒もおり、肌感覚ではもっと多いと感じる。運動の意義についても授業で教えており、運動時間の減少は、運動する場所や機会がないこと、環境の変化等、様々な要因が考えられる。
- ・中学校の部活動の入部率は、本校では運動部と文化部をあわせ80%を超えており、多くの学校がこの数字に近いのではないかと思われる。運動部については、競技志向とエンジョイ志向に二極化している印象である。また、競技志向の生徒は地域のスポーツクラブに参加する傾向があり、今後、運動部の入部率が下がる可能性があると感じている。
- ・地域のスポーツ団体がどんどん増えており、中学校として連携できているところとできていないところがあるのが、現状である。

(委員)

- ・関係団体や機関と連携しながら、地域の実状に沿ったやり方で、地域移行、地域連携を進める必要がある。スポーツ推進委員との連携も大切である。

(委員)

- ・身体障害、知的障害など、ハンディキャップのある子どもは、幼児のときは、保育園などで一緒に体を動かす機会があり、小学校でも可能な範囲で普通クラスや支援学級などで運動の時間はあるが、障害特性に応じた活動とすることはなかなか難しい。中学生、高校生になると支援学校に通う子どもが多いが、部活動は限られている。
- ・障害者スポーツ教室は13歳以上が参加できるが、こちらも保護者の送迎が必要である。13歳未満の子どもたちが参加できるスポーツ体験の機会や、障害のある子どもも、ない子どもも一緒に体験できるキッズ向けのスポーツの大会やイベントなどがあることが望ましい。

(委員)

- ・こうした大会のためには、保護者だけでなく、ボランティアの活動も大切である。コロナ禍で途切れたボランティアの活動を復活させる必要がある。

(委員)

- ・週末など休みの日に体を動かさない子どもが増えている印象がある。そもそも体力がないと、遊ぶことはできない。体を動かすことをいとわない子どもが増えるような取組を、保護者も巻き込みながら、大きな目で考えてほしい。幼児のエネルギーはととても強く、幼少時は筋肉ではなく循環機能をつけるこ

とが大切である。

(委員)

- ・小学校に隣接した場所に住んでいるが、この夏はグラウンドに雑草がたくさん生えていた。猛暑の影響もあるだろうが、子どもたちが外で遊ばなくなったことも原因と考えられる。これはスポーツよりも前の段階であり、子どもたちが自然と体を動かすような、スポーツをする前の取組が必要である。それがないと、スポーツにつながらない。

(会長)

- ・今年度は「第2次岡山県スポーツ推進計画」の初年度であり、この計画が実効性を伴うものとする必要がある。それぞれの施策項目はつながっており、そのような視点をもちながら取り組むことで、より実効性が高まるのではないかと考える。委員の皆さま方には、今後も貴重なご意見をお願いする。

## 5 報告事項 資料3

### (1) 令和5年度オリンピック・パラリンピアン育成事業強化指定選手について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

### (2) 岡山県スポーツ特別顕彰について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

### (3) おかやまマラソンについて

■事務局説明（マラソン事務局参与）

資料に沿って説明

### (4) 第79回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会（ショートトラック・フィギュア）・アイスホッケー競技会について

■事務局説明（国民スポーツ大会推進室長）

資料に沿って説明

## 6 閉会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・長時間にわたるご審議に感謝する。
- ・幼少期のスポーツ活動の大切さ、子どもにスポーツに親しんでもらうためには保護者への働きかけが有効であること、学校部活動の取組、地域移行・地域連携に向けた諸課題等、いただいた貴重なご意見を参考とさせていただきたい。

- ・第2次県スポーツ推進計画に基づき、県民一人ひとりが、より一層スポーツを楽しみ、スポーツを通じて地域の魅力を高めることができるように、各種施策に取り組んでまいります。